



チューリー

建設情報誌

C-net 通信

Construction

さが『C-net通信』で **検索**

2014年4月16日 発行所：(株) NSC <http://www.nsci.co.jp>

■会員料金■

原社長「勇気を持って情報発信」

環境工法や有明海再生

平成26年度研究成果発表会



挨拶する原社長

日本建設技術(株)グループ

日本建設技術(株) (原裕社長、唐津市北波多) グループの平成26年度「研究成果発表会」(第11回)が12日、唐津シーサイドホテルで開催された。来賓やグループ企業の社員ら約200人が出席。同社の発砲廃ガラス素材ミラクルソルを使った環境工法の成果や有明海再生に関する提案の発表が行われた。併せて、資格取得者の紹介と社内表彰、来賓と社員との懇親会で盛り上がった。



研究発表のようす



来賓や社員など出席者

冒頭、原社長が「我が社は、1995年からガラス廃材の再資源化ということで環境の分野に国内でもいち早くリサイクルの事業に乗り出して、今日まで水質浄化や軽量盛土、透保水性舗装工法、環境緑化など数多くの分野に進出できた。昨年は、地盤工学会九州支部で、間伐材を使った軟弱地盤補強対策のラフト&パイル工法が技術賞を受けた。今年も2年連続で透保水性舗装工法が九州支部の技術賞を受賞することになった。研究開発型の会社として認知されてきていることだと自負してよいと思っております」。「地球温暖化で今世紀末には6.4度ぐらい気温が上昇すると新聞報道されているが、斜面防災や屋上緑化、舗装など保水材としてミラクルソル工法を採用してもらえれば、と今年も全国でプレゼンを行っていきます」。「また、昨年は長崎で世界初のクロマグロの陸上養殖の水質ろ過剤に使ってもらい、さらに佐賀大の荒木教授を中心に日本国土開発とハイブリッド吸着剤を共同開発。今年も夢と希望を持って、これまで蓄積した技術を惜しみなく情報発信して新たなステージに挑戦していきたい。」と挨拶した。

研究成果発表では、原社長が『2013年度の活動とFWG透保水性舗装工法』▽水環境研究室の飯田拓史主任が『クリスタルバイオの硝化反応特性と工学的視点か



懇親会で乾杯し交流

ら見た水産養殖施設の設計手法」▽技術戦略本部の林重徳統括本部長(佐賀大名誉教授)が『「有明海再生提案」とその展開』一の演題で各々発表した。FWG透保水性舗装工法は、建設中の玄海町立小中一貫校の外構工事でも採用され、夏場の温度上昇を抑制。飯田主任は、ろ過材のクリスタルバイオがアンモニアを分解する硝化反応を検証。林教授は、ノリ養殖で使用される乳酸を含有する酸処理剤が底泥・底質の硫化水素等を発生させ、貧酸素水塊を形成し、貝類の死滅につながっているとの持論を展開。ミラクルソルを使った底質改善事業の拡大を訴えた。

その後の懇親会では、来賓として保利耕輔衆院議員や坂井俊之唐津市長らも出席し、乾杯の音頭の後、和やかに交流した。
【4月14日HP掲載】